郷土摂津 いにしえ通信

第58号　平成15年2月1日

発行　摂津市教育委員会　生涯学習部生涯学習課

〒566－8555　摂津市三島一丁目1－1

℡（06）6383－1111　℡（072）638－0007

ホームページアドレス　http://www.city.settsu.osaka.jp/

第11回 屎舟

シリーズ！ 淀川を往来した船

屎舟　近世を通じて大坂三郷の人口は30万を越えていました。この大都市の住民が排出する屎尿の処理は、都市衛生上の大問題でした。一方、近郊農村では、商業的農業が発展するとともに、肥料の入手・購入が大きな問題となってきました。この両者を結んだのが、屎船業者や村持屎船の活動でした。淀川水系を往来する屎船はまた、おびただしい数にのぼっていきました。これらの屎船の航行については、大坂町奉行も、屎尿の搬出という衛生行政の見地や、屎尿は商品ではないとする見地から、運上銀を免除し、航行を認めていました。しかし、屎船は、屎尿を運ぶだけでなく、しだいに村々の農産物を大坂に運び出すようになり、過書船や大坂市中の特権川船の権利を侵害し、争論を起こすようになっていきました。摂津市域では、戦後まで大阪への肥（こえ）汲みは続きました。

戦国時代、ポルトガル人宣教師が京の町を見て、日本の都市の清潔さに驚いたといいます。大都市の人糞を近郊農村の肥料に還元するリサイクルシステムが16世紀にはもう出来上がっていたのです。

桶舟

摂津・河内両国の下屎をとるため、桶に入れて運送しました。往路に青物・野菜を積み市に搬出、復路に下屎を積みました。

部切舟

下屎を入れるため、舟に仕切りをしています。間舟ともいいます。淀川筋の下屎仲間が使用しました。

講座や展示のご案内、活動報告など多彩な文化財情報を毎月お知らせします。また、このページでは皆様の投稿を募集しています。

投稿コーナー

ふるさと摂津講座「吹田市立博物館と紫金山公園」に参加して

三島　T. I

平成 15 年 1 月 15 日、小雪が舞うような寒空のなかでしたが、ふるさと摂津講座の歴史散策に参加しました。以外？といったら申し訳ありませんが、多くの方が参加されていて寒気もふきとぶ熱気がありました。

初めに JR 岸辺駅に集合。長いガードを抜ければ、寒いながらも太陽がまぶしくふりそそぎます。吉志部神社の２つの立派な鳥居をくぐり、紫金山公園へと向かいます。

吹田市立博物館につきました。博物館参事の藤原学さんから普段は入れない博物館の施設などについて説明をいただきました。やはり博物館となりますと、立派な施設、たくさんの専門スタッフなど驚きの連続でした。なにげなく置いている土器や瓦にもつい目がいってしまいます。

展示については、学芸員の望月さんから説明をいただきました。このときは特別展「むかしのくらしと学校」が開催されていました。実際に重さを計れる「さおばかり」のコーナーや「ベッタン」「お手玉」などむかしの遊びのコーナーなど様々な趣向が施され楽しい時間が過ぎていきました。常設展示では須恵器や瓦の窯跡が実物大で再現されていて迫力満点でした。すべてを見るにはもっと時間が欲しかったです。場所もわかりました。またお伺いしたいと思います。

次は紫金山公園へ出て、実際に発掘調査された藤原さんから、吉志部瓦窯跡の説明を受けました。説明がなければ、ここに瓦窯があったとは気付きませんでした。遺跡、自然、施設が溶け合いこの場所に博物館が建てられたことにも納得。

最後に吉志部神社。ここも藤原さんの心づかいで、普段は見ることができない重要文化財の本殿まで見せていただきました。

吹田市は身近に感じる反面、以外と知らない事もあるのだなあと感心しきりでした。

紫金山公園にて

吉志部神社にて

郷土史コーナー

三宅（みやけ）の歴史

意外と身近な郷土の歴史を紹介していきます。

旧三宅村分村

三宅村は、昭和32年３月30日をもって茨木市との合併を決定していました。しかし、三宅村のなかでも、従来から千里丘地区の一体性の確保を期して味舌・味生・鳥飼との合併を主張していました大字小坪井・鶴野・太中・乙辻の住民は、茨木市との合併を納得せず、合併問題の再検討を要求して村長・議会のリコール（村長の解職と議会の解散請求）運動を展開しました。昭和31年９月19日に初めてリコール署名簿を三宅村選挙管理委員会に提出しました。しかし、書式や地方自治法上の不備を理由として却下され、それに対してまた提出するという繰返しが前後５回に及ぶなど、紛糾を重ねた結果、四大字の住民は最終的には分村を主張するまでになりました。「千里丘地区の統一は国鉄千里丘駅開設以来の宿願でありまして、駅を中心にして発展途上にあるこの地区の今後尚一層の発展を期するためには、駅附近の市町村境を残さず行政区画を一元化することであります。又、内野地区の悪水を処理して水田を冠水の被害より護り数十町歩の農地の死活問題を解決するには、下流に向って合併し自然排水による永久性を確立することが必須の要件であると信じます。之が実現を促進するためには隣接三島町と合併せなければ、永遠に目的達成の途が閉ざされるものと思考します。」とした三宅村議会への請願を行うとともに、三島町に対しても働きかけを行いました。そのため、事態を憂慮した大阪府が関与する所となり、昭和32年３月12日に関係当事者としての三宅村・三島町・茨木市に対する調停案を示しました。同年３月30日に、三島町・茨木市両議会において「境界変更に関する件」「境界変更に伴う財産処分に関する件」がそれぞれ可決され、三宅村は消滅しました。鶴野と小坪井は三島町に編入されました。三島町の中学生は全体の一割程度であることから、三宅村時代と同様、茨木市立養精中学校に委託されることになりました。

しかし、三島町との合併を希望していた乙辻・太中の住民は、陳情書や嘆願書を提出しました。こうして、昭和35年に住民投票が実現し、有効投票の３分の２に達したので、三島町に編入されました。三宅小学校は茨木市立から茨木市･三島町学校組合立に改められ、両市町の児童を受け入れることになり（昭和48年３月31日まで続く）、養精中学校への委託は三島中学校の設立もあり、打ち切られる（在学生と特に希望する35年度の新入生は除く）ことになりました。

「摂津市史」より　　担当　（茗荷）

三宅村役場

右側が村役場（三宅農協の建物を借用）
左側が三宅農協

第２３回

埋もれた摂津市の歴史

発掘調査で明らかになっていく摂津市の埋もれた歴史をシリーズで紹介していきます。

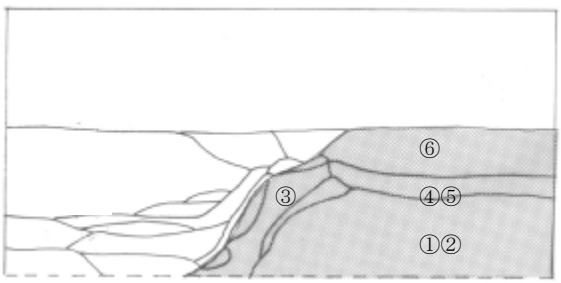
平成１０年度　千里丘７丁目試掘調査　その１

試掘調査について　敷地南半中央に東西方向に幅 1.5m長さ 10mでトレンチを設定し試掘調査を行いました。最上層は明確な整地層で厚さ約 75 ㎝です。次に黒褐色の近現代に属する旧耕作土で厚さ約 15 ㎝。次に褐灰色粘質土です。厚さは約 15 ㎝。この堆積の上面で精査作業を行いました。遺構は土坑３、溝１を検出しました。遺物は瓦器と土師器が各１点出土しましたが、いずれも砕片で時代の特定は困難な状況でした。この堆積の下層も比較的しっかりした淡灰色砂質土で精査作業を行いました。遺構として土坑５、溝２が検出されましたが､遺物の出土がなく、時代の特定は困難な状況でした。最下層は茶褐色、淡灰色の遺物もなくレキ石を含まない砂層です。

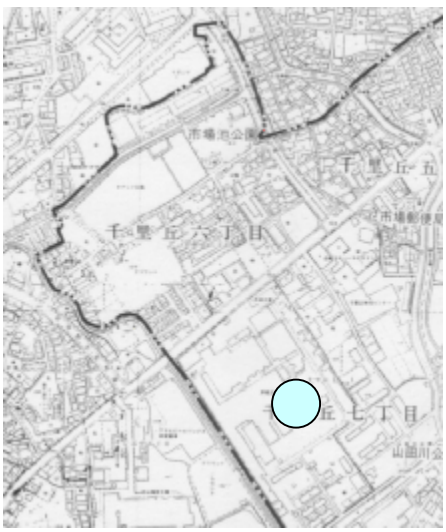
立会調査について　試掘調査の結果を受けて、基礎工事と並行して立会調査を実施しました。試掘調査と同じく遺物の出土はありませんでした。しかし南端で堤防が想定される堆積が見つかりました。断面での観察ですが、築造の状況が確認されました。①青灰色粘土でベースをつくる。②木材を横たえさらに青灰色粘土で覆う。③淡褐灰色、褐灰色の粘土で斜面を整える。④上面に掘り込み地割を行う。⑤地割を埋める。⑥さらに淡褐灰色砂質土で盛り上げる。以上の工程が確認されました。この堤防を肩として流砂層が東から西へ堆積していました。また傾斜に沿う形で赤褐色の砂質土が張り付いて堆積していました。

これは、植物など有機物によるものと思われます。次回はこの堤防と正雀川との関係について考えていきます。

担当　（伊部）



堤防構造断面図



調査地位置図